

最終の綠會の研究繼續會に列りて

氏 原 銀

昭和七年十二月六日午後三時より、東京女高師附屬保育實修科卒業生の東京及び近縣の就職者より成れる保育研究繼續會がお茶の水園に開催の御案内を辱ふして老姉妹は出席いたしました。當日倉橋先生及川先生新庄先生を初め

して會員五十餘名の出席ありて開會、先づ倉橋先生より研究題幼兒の書き方に付きてのお講話あり、之れを有益に傍聽した事を感謝す、斯くも倉橋先生によりて此會員諸氏の研究を繼續せらるゝ事のお仕合せを慶賀す。

此お茶の水幼稚園も昭和八年一月より、大塚なる立派にうつくしく新築相成りし園舎に移らるゝ事となり、本會の此場所に於ての會合は之れが最終なるを思ひ、此創立五十七年の意義深き歴史を有する園の、惜別の情こ一方新園舎に移らるゝ喜びの念こ悲喜交もぐの心境に打たれ、殊に此園に最も古き關係を有する私の此處に何か懷舊談を述べずして黙過しがたく、昔時の唱歌と遊戲に樂器を使用せざり

し苦心の事柄をお話し致しましたが、少しく申残した處がありますので、此處に之れを補充し且つ他の保育者諸氏の御参考にも成んか存じまして記する事と致しました。

お茶の水園の明治九年創設せられしより五年間程は唱歌にも遊戲にも樂器を使用せざりしを以て、其保育者は其唱歌を樂器に和した様にうつくしく表現する要有り、依て唱歌の練習に大に勉強をなしたり、此練習の効果は實に著しく其調ひたる旋律に其音量の十分なるうつくしく肉聲の表はれに、保育上は優良なる快感を附與するを得るに至りて樂器に伴ふものよりは却て佳味深き感あり。

遊戲の樂器に伴はざる事も唱歌同様なるも其苦心は唱歌より多く之れは遊戲の動作をなしつゝ美なる肉聲を表はすものなれば、其唱歌の發音の時に高きに過ぎ低きに過ぎて適中を誤り易く尙音量の不足を感じる場合あるも之れが練習によりては立派に苦痛なく遊戲をなさるゝに至る、實に

唱歌竝に遊戲の樂器の力によらざるも練習の如何によりて鍛鍊せられし肉聲の却て美妙の快感を得る事を、以上の如き練習によりて樂器の力によらざる唱歌及び遊戲の其場處の室内戸外を選ばず樂器なき處に於ても、容易になし得られ殊に遠足の時の樂器の携帶なきも立派に遊戲を爲し得るの便宜あり、此の簡便方法をお試みあらん事をお勧め致します。尙新設の幼稚園や托兒所の經費の乏しき場合は、其保育者の唱歌に熟練されたる人を得ば樂器購入の必要なく經濟上の利益あり。

現代音樂研究者の中には樂器の練習には力を入れるも唱歌の練習には餘り勉めざる傾きあるを遺憾とす。之れ唱歌は樂器に伴ふものなりとの考より出でしものならんか。

却説お茶の水幼稚園の昔時に唱歌遊戲に樂器(ピアノオルガン)を使用せざりしに付述べんに、當時遊戲室に立派な「ピアノ」一臺備へ付られたるも、一週中月曜日と木曜日の二回朝の會集の時クララ先生の彈かれて唱歌に和すのみで其他毎日の唱歌遊戲には使用せられざりし。其他我國古來より雅樂に用ひられる六絃の和琴を使用せられしも之れは音の極めて微弱で其唱歌の調子によりて調子を立て變へねばならぬ手数ありて餘りに用ひざりし、何しろ廣き幼稚園

に唯一臺のピアノの遊戲室に備へ付けある事にて使用に不自由なるは當然の事なり、されど遊戲の時なりき使用せられたらんを望むも之を爲れざりしは、クララ先生の本國にて修業せられし主義の樂器を多く使用せずして肉聲唱歌の美點を主眼とせられし者ならん。尙當時樂器は舶來のみで輸入數も少く高價なりし。今日では何れの幼稚園にもピアノ又はオルガンの備付なき所なし依て今昔の感を深くす。

次に庭園の遊び場に付て述べます。此處にはブランコすべり臺梓上り砂遊び場等の設備なく、保育者は幼兒の遊び相手に大に意を用ひたり、即ち鬼子、たゞき鬼、めかくし鬼、かけくら、毬なけ、旗取り、輪なけ、輪廻はし、まゝ事遊びに付て随分活動せり、小西信八先生の主事時代先生が旗を持たれて幼兒の先頭に立ち相手とせられし事は有名なものなりし。終に臨み現代の有様を以てよろしく昔時を想像せられん事を

お茶の水に於ける最終の綠會の繼續研究會に出席してなつかしき思ひ出ふかき此園に惜しき別れの時ぞ來にける

此園に集ひ語らふたのしさもけふをかきりこなりにけるかな

(昭和七年十二月十三日)